地域づくり表彰

狙半内（さるはんない）地域センター運営協議会（秋田県横手市）

みんなで灯す協働の灯り

狙半内地域センター
運営協議会
会長
高橋　淳一

１．横手市の概要

横手市は、秋田県の内陸南部に位置し、平成17年10月１日、横手市、増田町、平鹿町、雄物川町、大森町、十文字町、山内村、大雄村の８市町村が合併、秋田県第２の都市として誕生しました。人口は、平成29年８月現在で92,071人です。

東の奥羽山脈、西の出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央に位置し、東西45.4km、南北35.2kmに広がっています。奥羽山脈に源を発する成瀬川、皆瀬川が合流した雄物川及び横手川が貫流し、中央部には肥沃な土壌が形成されています。

この肥沃な土壌と寒暖の差が大きい気候に育まれて豊かな実りが生まれます。横手市は秋田県の中でも有数の穀倉地帯ですが、米以外にもりんご、ぶどう、さくらんぼ、すいか、しいたけ、里芋など、安全で美味しいたくさんの農産物が自慢です。

また、日本でも有数の豪雪地帯であり、少子高齢化が進行する横手市では、除排雪の対応に苦慮する世帯も多く、大きな課題となっています。

一方で、各地で雪にちなんだ伝統的な小正月行事が行われてきました。大きな雪室に水神様を祀り、家内安全・商売繁盛・五穀豊穣などを祈願する「かまくら」は、現在では県内はもとより、県外や海外からも観光客が訪れる観光イベントとなっています。

横手市の伝統行事「かまくら」

明治から大正時代にかけて、商業活動が加速度的に活性化した増田の繁栄を今に伝えるのが、「増田のまちなみ」と「内蔵」です。短冊形の主屋が軒を連ねる景観、主屋・内蔵・外蔵を土間で結ぶ商家町屋の特徴は、雪国のこの地域独特のものです。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことを機に、まちなみ景観などを維持しながら、後世へ継承していく取組を積極的に行っています。

多くの見物客でにぎわう内蔵公開イベント

２．活動開始の背景・経緯

合併前の増田町では、町内の各集落が独自にさまざまな自治活動と伝統文化を継承しながら特色ある集落を形成していましたが、少子高齢化と過疎化が進む中で、地域の連帯感の希薄化、防災機能の低下、農地耕作の放棄など共通した課題を抱えていました。また、住民の行政需要が複雑かつ多様化する一方で、厳しい財政状況が続いており、限りある予算で有効的かつ効果的な事業が求められていました。

このような中で、住民と行政の連携強化や住民の自助・共助が求められるようになり、町内に当センターを含む４つの地域センターが設置され、その運営主体として地域センター運営協議会が組織されました。

狙半内地域は、増田町の南東部、最も奥地に位置し、地域内には上畑温泉「さわらび」、天下森スキー場等の施設のほか、炭焼き小屋、雪室、自然散策道もあり、グリーンツーリズム体験や自然と触れ合うには最適の場所であったことから、地域資源を活用して地域の活性化や融和を図る取組が実施されてきました。

当協議会が拠点としている「釣りキチ三平の里」体験学習館は、同地域出身の漫画家矢口高雄氏の代表作「釣りキチ三平」に描かれた狙半内の自然にふれあう小学生の元気な声により賑わいを取り戻したいという地域住民の思いから、旧増田東小学校の廃校舎を利用して設置された施設です。

「釣りキチ三平の里」体験学習館

３．活動内容

狙半内地域センター運営協議会は、地域内６集落や地域内各団体の代表者により組織されています。総会で選出された役員で構成される役員会が活動の企画運営を担い、全委員が所属する、地域コミュニティ部会、地域文化・教室部会、スポーツ・健康部会、住民生活部会の４専門部会が事業主体となり、以下のような活動しています。

【地域コミュニティ部会】
- 元祖さるはんない幻灯
- 地域センターまつり

【地域文化・教室部会】
- フラワーロード
- みんなで育てようおらほのセンター
- 視察研修

【スポーツ・健康部会】
- スポーツ交流会
- クリスマス・ビッグコンサート
- 健康づくり教室

【住民生活部会】
・行政への要望事項の取りまとめ

狙半内地域は、横手市の中でも最も少子高齢化が進む地域であることから、当協議会が主催するイベントには、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、世代間交流の促進が図られるよう工夫されています。こうした取組は、住民同士の連帯感の醸成のほか、地域活動の担い手育成の一助となっています。また、活動を通じて、地域の伝統文化や芸能の継承を行いながら、地域への愛着を育んでいます。

次世代へ継承される伝統芸能

４．「元祖さるはんない幻灯」

当協議会の最大の事業である「元祖さるはんない幻灯」は、毎年２月中旬、狙半内地域の６集落で行われる雪まつりで、沿道約 10㎞ の雪壁に、小さな雪洞を掘り、3,000 本近いろうそくを灯すイベントです。優しく揺れる光が沿道を照らす美しい風景は、訪れた人を幻想的な雰囲気に誘います。

「元祖さるはんない幻灯」ポスター

イベントの始まりは、同地域の上畑集落を会場とした「地域センター雪まつり」でした。その内容や会場範囲が回を重ねるごとに拡大していく中で、イベントの名称も変更され、地域の全集落が参加する現在の形に発展しました。同時に、協力体制もより強化され、老人クラブ、親子会、かまくら愛好会など地域団体と協働でイベント運営が行われるようになりました。

住民総出による準備作業

近年は、来場者を楽しませるため、集落ごとに工夫を凝らした雪像やオブジェが制作されるほか、甘酒やおでん、豚汁のふるまいも行われています。このような住民総出の手作り感溢れる温かいもてなしが評判を呼び、口コミやＳＮＳの効果も相まって、市内外からの来場者が年々増加しています。イベントの準備作業は容易ではありませんが、来場者数の増加が地域住民の士気を高め、イベントを継続させる原動力となっています。

ろうそくの灯りが優しく照らします

集落ごとに制作される雪像やオブジェ

同地域は、市内でも特に雪深い地域であり、冬期間の屋根の雪下ろしが 10 回を超える年も珍しくありません。高齢化が進む中、日々の除雪、雪下ろしは重労働であり、生活の障害となっています。また、毎日のように実施される道路除雪によりできる２m超の雪壁は活用方法もなく、春の雪解けを待つだけでした。このイベントは、この生活の障害となっている雪を地域資源として利活用するという逆転の発想から生まれた地域活性化イベントと言えます。

５．課題と展望

少子高齢化と過疎化が進む狙半内地域において、地域の活性化や持続可能な地域づくりは最大の課題となっています。

住み慣れた狙半内で暮らし続けたいという住民の願いを実現するため、特に高齢者が生きがいを感じ、心身ともに元気でいられるよう、地域内外の住民・集落との交流を積極的に行い、地域全体の活性化につなげていきたいと考えています。

地域みんなで健康で元気に！

同地域では、除雪や買い物に不自由する住民を地域で支える「共助」の取組が、当協議会の役員等により結成された「狙半内共助運営体」により行われており、全国的にも注目されています。

「狙半内共助運営体」による雪下ろし作業

こうした取組や当協議会の活動の担い手を確保するため、さまざまな活動を通じ、子どもから高齢者まで、地域の一人ひとりが主役という意識の醸成を図ります。また、地域に愛着と誇りを持てるよう、眠っている地域資源の発掘に努め、それを地域外に発信し、来訪者や移住者の増加につなげていけるような事業を展開していきます。